

令和元年度 決算を認定

9月17日に令和元年度決算審査特別委員会を設置し、10月1日から14日まで各会計の決算議案を詳細に審査した後、10月15日の本会議で原案通り認定しました。

決算のポイント

一般会計の実質収支は、3億8千万円と44年連続の黒字。財政基金と減債基金からの繰入金を除くなどした実質的な単年度収支は、7億4千万円の赤字。

特別会計は、実質収支で7会計(国民健康保険事業や介護保険事業など)が黒字、3会計(葬祭事業など)は収支差引ゼロとなったほか、企業会計(水道事業、下水道事業)の2事業は黒字となりました。

基金と市債の状況

市の貯金である財政基金など3基金の現在高は110億1千万円で、4億8千万円の減。借金である市債の現在高(一般会計)は1182億1千万円で、7億3千万円の減となりました。

市財政の健全度

財政破綻を未然に防ぐため「財政健全化法」では、健全度を判断する4つの指標(健全化判断比率)を市民に公表することを義務付けています。

本市の指標は下記の通りで、全ての基準を満たしています。

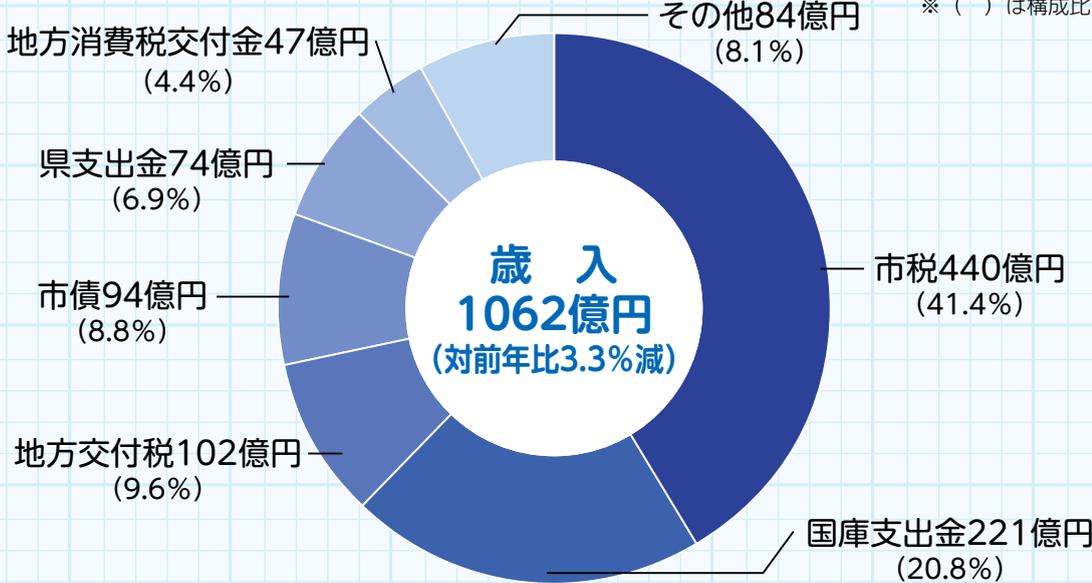
健全化判断比率	本市の令和元年度決算	法で定める早期健全化基準
実質赤字比率 (一般会計の年間赤字割合)	-	11.25%
連結実質赤字比率 (全ての会計の年間赤字割合)	-	16.25%
実質公債費比率 (借金返済の割合)	3.0%	25.0%
将来負担比率 (将来負担が見込まれる負債割合)	25.5%	350.0%

*実質赤字比率と連結実質赤字比率は、赤字でないため値なしとして「-」表示

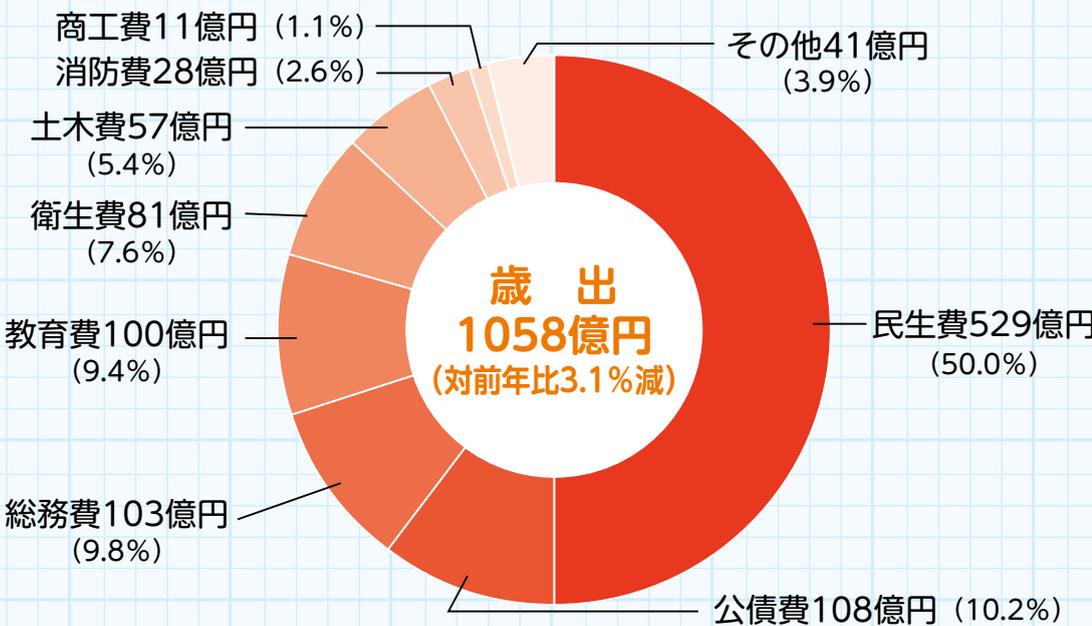
一般会計

歳入(A)	歳出(B)	形式収支(C=A-B)	繰越財源(D)	実質収支(C-D)
1062億1224万円	1057億7822万円	4億3403万円	5807万円	3億7595万円

※()は構成比



市税は事業所税などの増加で14億円の増。国庫支出金は私立保育所・認定子ども園や西日本子ども研修センターにかかる補助金などの増加で25億円の増。



民生費は私立保育所等の運営にかかる幼保給付費や西日本子ども研修センターの整備・運営費、児童相談所運営事業費などの増加で26億円の増。総務費はJ・T跡地活用事業費などの減少で61億円の減。

市民の意見を反映した新庁舎を

新庁舎整備検討 特別委員長に聞く



あきはら なるひと 穂原 成人

【議会歴】在職4期。議長、副議長、監査委員、建設企業常任委員長などを歴任。61歳。

【担当分野】新庁舎整備に関する事項について調査・研究を行うとともに、関連する予算その他の議案について審査します。

重点的に取り組む事項

当委員会では今年度、新庁舎の基本計画に基づき議論を進め、当初の予定通り令和3年3月末までに実施設計に着手できるよう議論していきます。特に、新庁舎の全体像から細部にわたる基本設計案を策定する過程では「市民が利用しやすい、親しみやすい庁舎」をキーワードとして、機能や耐震性、緊急時の対応などが考慮され

た設計になっているのか、しっかりとチェックを行い、一定の結論が出せるように努めていきます。

委員長として一言

新しい市役所庁舎は、明石市の象徴となる建物です。市民の憩いの場となることを目指し、限られた時間の中で、建設的な議論を進め、市民の皆さまの意見を反映した庁舎となるよう取り組みを進めてまいります。

安全安心なまちづくりを進める

建設企業 常任委員長に聞く



まるたに さとこ 丸谷 聡子

【議会歴】在職2期。総務常任副委員長、文教厚生常任副委員長などを歴任。57歳。

【担当分野】道路や河川、公園などの整備、住宅や都市計画、上下水道など、市民生活の基盤となる分野を審査します。

重点的に取り組む事項

市民生活を支える道路や上下水道の維持管理、市民の皆さまの安らぎや健康づくりの場である公園や海岸などの感染予防対策を徹底し、安全安心な環境を整えていきます。特に今年度は、西明石駅のホームドア設置や山陽電鉄駅のバリアフリー化を進めていきます。また、障害のあるお子さんも利用できるインクルーシブ遊具などを

備えた(仮称)17号池公園の整備や南畑踏切などの交通安全対策、山手環状線等の幹線道路の整備など、多くの重要な課題について、しっかりと審査してまいります。

委員長として一言

市民の皆さまが安心して暮らせるよう、将来を見据えた都市基盤整備を確実に進めてまいります。ぜひ委員会の傍聴にお越しくください。